

2015 年度「研修会報告」 No.2

◆第2回 研修会

- ・日時：7月18日（土）13時30分～15時30分
- ・場所：遊亀公民館
- ・テーマ：「みんなで共有、レッスンの疑問」
- ・参加者：14名



事前に会員の皆さんから日頃のレッスンでの体験や、答えに窮した受講者の質問など難しいと感じる項目をアンケートに出していただき、それを皆さんで解決していく会員相互研修会です。今回は幾つかの質問の中から、次の3項目を中心に、例文作りから入り、どう違う（ニュアンス）まで研修しました。

1. 言葉の使い分け
2. 「～しょう」の使い方
3. 数量詞について

1. 言葉の使い分け

- ① 「町」と「街」の違い
- ② 「便利」と「役に立つ」の違い
- ③ 「大きい」と「大きな」の違い

例文を作りながら、どちらの語も使える場合、一方しか使えない場合の違いは何か、等を話し合いながら進めました。「大きい」を「大きだった」「大きくなる」という間違っただ表現をしないように注意が必要です。

2. 「～しょう」の使い分け

- ① V+ましょう：行きましょう。帰りましょう。
- ② NがVでしょう：晴れるでしょう。雨がふるでしょう。
- ③ どちら様でしょうか。お幾らでしょうか。
- ④ 今日は、日曜日でしょうか。山田さんでしょうか。
- ⑤ さっき言ったでしょう。そこにあるでしょう。
「～しょう」だけでこれくらい使い方があります。
皆さん、納得されたでしょうか？

3、数量詞

日本語の数量詞は沢山あって、しかも発音が違ってきます。また、数量詞につく助数詞にも一定の法則があるようなのですが・・・それは？

例えば、「ひとつ、ふたつ、みっつ、よっつ・・・とう」

「いち、に、さん、し、ご・・・じゅう」という基本の日本語数量詞に、どのような事物かで「助数詞」が違って来る。

例えば、助数詞「枚」「台」「本」「匹」によって、どのような事物か違ってきます。しかも、数量詞によって助数詞の発音も違ってきます。

例えば一匹（びき） 2匹（ひき） 3匹（びき）・・・ひき、びき、びき他にも沢山あります。月日の発音もこれとは違う発音があり、学習者には大変困難です。

これはどう理解してもらおうかでなく、文型の中でどう使うかの学習するしかありません。しかし、教師は文法上の一定の法則を身につけておくことは必須です。

◆第3回 研修会

- ・日時：9月12日（土）13時30分～16時
- ・場所：中央公民館
- ・テーマ：漢字指導について
- ・講師：長阪たか子さん
- ・参加者：11名



漢字は「神秘的なもの」にとらえられがちですが、実に「論理的」に覚えることが可能です。

1. 漢字を学ぶCAN DOとは

① 利点は？

どこにでも漢字は存在する。薬、標識、チラシ、メニュー等がわかる。

② どの漢字から学ぶのがよいのか？

読み書きを主体に学習する漢字。 短編小説、童話

③ サバイバルな漢字から学ぶのか。

①と同じように身近な漢字から学ぶ。

④ ドリルで学ぶのか？

単に漢字単語だけでなく文章の中にある漢字。

参考・常用漢字：2136字

・日本語能力検定：N3・・・500字、N2・・・1000字
N1・・・2000字

・小学校で習う漢字：1006字（参考：小学校学習漢字1006字）

2. 漢字の種類

象形文字、指事文字、会意文字、形声文字、国字

3. 漢字の構成

- ・部首（ある程度の漢字学習後、教える）、
- ・音符（音読みを覚えることで辞書がひける）

その他にも漢字の成り立ちや歴史なども学習しました。日本語教師として、直接学習者に教える機会は少ないと思いますが、知っておけばとっさの質問にも役立つとのことでした。



（報告：黒瀬、写真：村松）